

2012. 10. 6

バッハの名曲と3人の作曲家による 同名異曲の作品を聴く

プログラム

今回は「パルティータ(無伴奏ヴァイオリンのための)」、「フランス組曲」、「管弦楽組曲」というバッハの3つの名曲と、3人の作曲家による同名の作品を集めてお聴きいただくことにしました。

パルティータとは色々な舞曲や変奏を織り込んだ組曲で、無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータは、バッハを代表する傑作のひとつです。特に第2番は終曲に長大なシャコンヌが加わっていることで広く知られている名作です。モーツァルトのグラン・パルティータは管楽合奏のための作品で、約50分を要する大曲であるため、この名が付けられています。管楽器書法の粋を集めた名曲です。今日は今年生誕100年を迎えたハンガリー生まれの名指揮者シャンドール・ヴェーク(1912~1997)の演奏でお聴きください。バッハのフランス組曲は37歳頃の作品で、鍵盤楽器のための優れた曲集のひとつです。ミヨーのフランス組曲はフランス各地の民謡を題材に作曲した作品で、元々吹奏楽用に作曲されたため、こちらでも良く演奏されています。今日はこちらも今年生誕100年を迎えたルーマニア生まれの巨匠セルジュ・チェリビダツケ(1912~1996)の演奏でお楽しみください。バッハの管弦楽組曲第3番は「G線上のアリア」として知られるアリアが含まれていることで有名です。チャイコフスキーの作品は作曲者自身大変気に入っていた曲で、今日お聴きいただく「主題と変奏」は曲全体の半分を占め、変化に富んだ管弦楽の妙技が楽しめます。

バッハとそれぞれの時代の響きの違いを楽しみながらお聴きいただければと思います。

ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685~1750):

無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 二短調BWV.1004~ 抜粋

イツァーク・パールマン(ヴァイオリン)

(1980.8.2 サルツブルク祝祭小劇場でのLive)

ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト(1756~1791):

セレナード第10番 変ロ長調(13管楽器のための)“グラン・パルティータ”K.361~ 抜粋

シャンドール・ヴェーク指揮ウィーン管楽ゾリスト

(1996.2.3 サルツブルク、モーツァルテウムでのLive)

ダリウス・ミヨー(1892~1974):

フランス組曲op.248 ~ (3. イル・ド・フランス) 割愛

1. ノルマンティ 2. フルターニュ 4. アルガス・ロレーヌ 5. フロヴァンス

セルジュ・チェリビダツケ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団

(1991.9.30 ミュンヘン、ガスタイクホールでのLive EMI盤)

*** 休憩 ***

ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685~1750):

フランス組曲第3番 短調BWV.814

アンドラーフ・シフ(ピアノ)

(2011.6.11 ライプツィヒ改革派教会でのLive)

管弦楽組曲第3番 二長調BWV.1068 ~

序曲、ジーク

リッカルド・ムーティ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(1989.1.17 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)

アリア

小澤征爾指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1999.8.15 サルツブルク祝祭大劇場でのLive)

ピョートル・チャイコフスキー(1840~1893):

管弦楽組曲第3番 ト長調op.55 ~ 第4楽章 “主題と変奏”

アレクサンダー・ラサレフ指揮BBC交響楽団

(1993 ロンドン、ロイヤルアルバートホールでのLive)